

北区民まちづくり会議 次第

日時：平成27年12月1日（火）
午後6時30分～
場所：北区役所大会議室

1 開会

2 区長あいさつ

3 議題

(1) 北区基本計画—これから5年間のまちづくり—

『北区民つながるプログラム』（素案）について 資料1

(2) パブリックコメント、今後のスケジュールについて

資料2 資料3 資料4

4 その他

「はばたけ未来へ！京プラン後期実施計画（骨子）」について 資料5

5 閉会

<配付資料>

資料1 北区基本計画—これから5年間のまちづくり—北区民つながるプログラム—

資料2 『北区民つながるプログラム』（素案）について意見を募集！

資料3 今後のスケジュール

資料4 北区基本計画—これから5年間のまちづくり—北区民つながるプログラム—
意見募集ご協力をお願い

資料5 「はばたけ未来へ！京プラン 後期実施計画（骨子）」

<素案>

北区基本計画

資料 1

北区制
60周年

-これから5年間のまちづくり-
北区民つながるプログラム

未来を語る会 イラスト

01 市長・区長・座長メッセージ

02 『北区民つながるプログラム』について

05 「自然」とつながる

07 「まち（産業・文化など）」とつながる

09 「地域コミュニティ」とつながる

11 『北区民つながるプログラム』
を進めるために

13 『北区民つながるプログラム』
ができるまで

14 北区民まちづくり会議委員名簿

市長



区長



座長



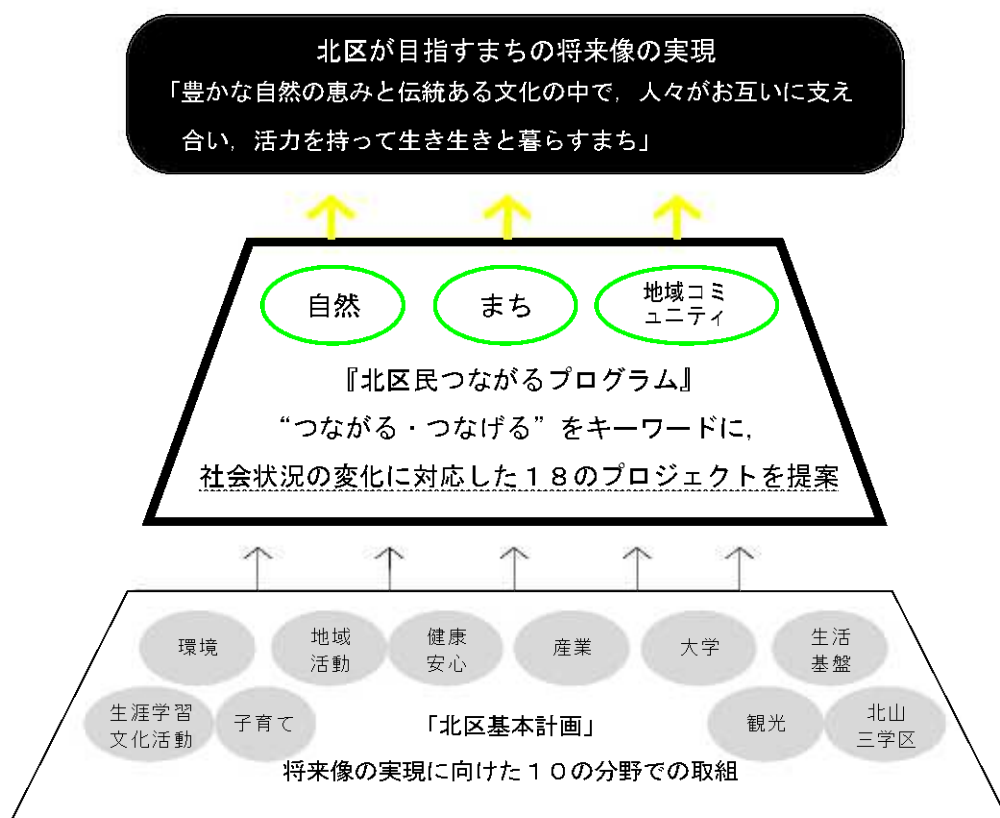
『北区民つながるプログラム』について

1 はじめに

北区民まちづくり会議（座長 市川貢 京都産業大学経営学部教授）では、「北区基本計画～はつらつ北区プラン～」*1に掲げた10の分野（「環境」「地域活動」「生涯学習・文化活動」「産業」「観光」「大学」「子育て」「健康安心」「生活基盤」「北山三学区」）の73の主要な取組例のほぼ全てについて着手したことに加え、計画策定から5年が経過し、また北区制60周年を契機とした北区のまちづくりの更なる発展を図るため、今日的課題である「人口減少社会への対応」や「安心安全のまちづくり」の推進、地域コミュニティの担い手としての学生をはじめとする「若者」や「子育て世代」等の地域活動への参加・参画の促進を視点を議論してきました。

また、市政の重点取組である、誰もが楽しく暮らし、優しさあふれるまちを築く「世界一安心安全・おもてなしのまち京都 市民ぐるみ運動」や人口減少社会の克服や一人ひとりが笑顔で、安心して生き、暮らせるまちを築く「まち・ひと・しごと・こころ京都創生」、市民ぐるみで健康づくりに取り組む機運を高めていく「健康長寿のまち・京都」の推進に向けて、区民の皆さんと行政が主体性を持ちながら連携し、取組を進めていきます。

『北区民つながるプログラム』は、“つながる・つなげる”をキーワードに、市政の重点施策と課題を共有しながら、北区が目指すまちの将来像の実現に向けて、区民*2の皆さんが主体的に取り組むためのプログラムです。区民の皆さんと北区の資源（＝「自然・まち・地域コミュニティ」）とが、「知る・触れる・関わる」3つの段階を経てつながることで、北区の地域力が向上することを目指し、区民の皆さんがみんなで取り組む今後5年間のまちづくりを18のプロジェクトとして取りまとめました。



*1 北区基本計画：平成32（2020）年度を目標とした10年間、どんなまちをめざすのか、それを実現するためにどうすればいいのか、北区のまちづくりを進めるために 区民の皆さんと区役所が共有する指針です。

*2 区民：北区基本計画では、北区に通勤する人、通学する人など北区で活動する人も、北区のまちづくりにかかわる一員となっていただくことを期待して、区民に含めることとしています。

2 進める視点

地域での「つながり」が改めて必要とされています。

北区基本計画が策定されて5年が経つ間、少子人口減少社会の顕在化や、東日本大震災の発生など、私たちの暮らしに関わる大きな社会状況の変化がありました。

北区でも、人口が12万人を下回り、今後も減少すると予測されています。少子化・高齢化が進み、地域の担い手である若い世代が更に少なくなることは、地域コミュニティが弱まることにつながり、豊かで安心な暮らしを育んできた、まちづくり活動の充実や安心安全の継続が危惧されます。そのため、健康寿命の延伸はもとより定年を迎えたシニア世代、子育て世代、学生や若者など多くの世代のまちづくりへの参画が、ますます求められています。

- ・少子人口減少社会 北区内人口：平成22年122,037人（国勢調査結果）⇒平成26年119,695人
- ・地震や風水害の顕在化：平成23年3月東日本大震災、平成25年9月台風18号、平成26年8月台風11号
- ・北区内5大学・短期大学の学生数：平成26年 52,543人（11,953人 通信教育課程含む）

3 目指すもの

一人でも多くの来訪者や区民の皆さんが、北区の豊かな資源とつながり、「また行きたい」「暮らしたい」「住み続けたい」と実感することです。

多様なまちづくり活動が行われることによって、北区の資源（＝「自然・まち・地域コミュニティ」）が活かされ、「また行きたい」「暮らしたい」「住み続けたい」と実感できる魅力的なまちを育むことができます。

- ・北区の豊かな資源 「自然」：北山や賀茂川、田畑や天然記念物など
「まち」：地域特性を活かした文化や産業
「地域コミュニティ」：地域活動で培われてきた住民相互のつながり

4 取り組むこと

区民の皆さんと北区の資源をつなげるために、「知る・触れる・関わる」機会を増やします。

区民の皆さんと北区の資源がつながる機会を、「知る・触れる・関わる」という段階に分けて整理し、これからの北区のまちづくりにつながる18のプロジェクトとして提案します。

- ・資源とつながる段階 まずは「知る」：溢れる情報を整理し届けます
つぎに「触れる」：色々な体験の機会をつくります
そして「関わる」：区民の皆さんが取り組める仕組みをつくります

- ・18のプロジェクト＝3つの資源×3つの段階（段階ごとに2つの提案）

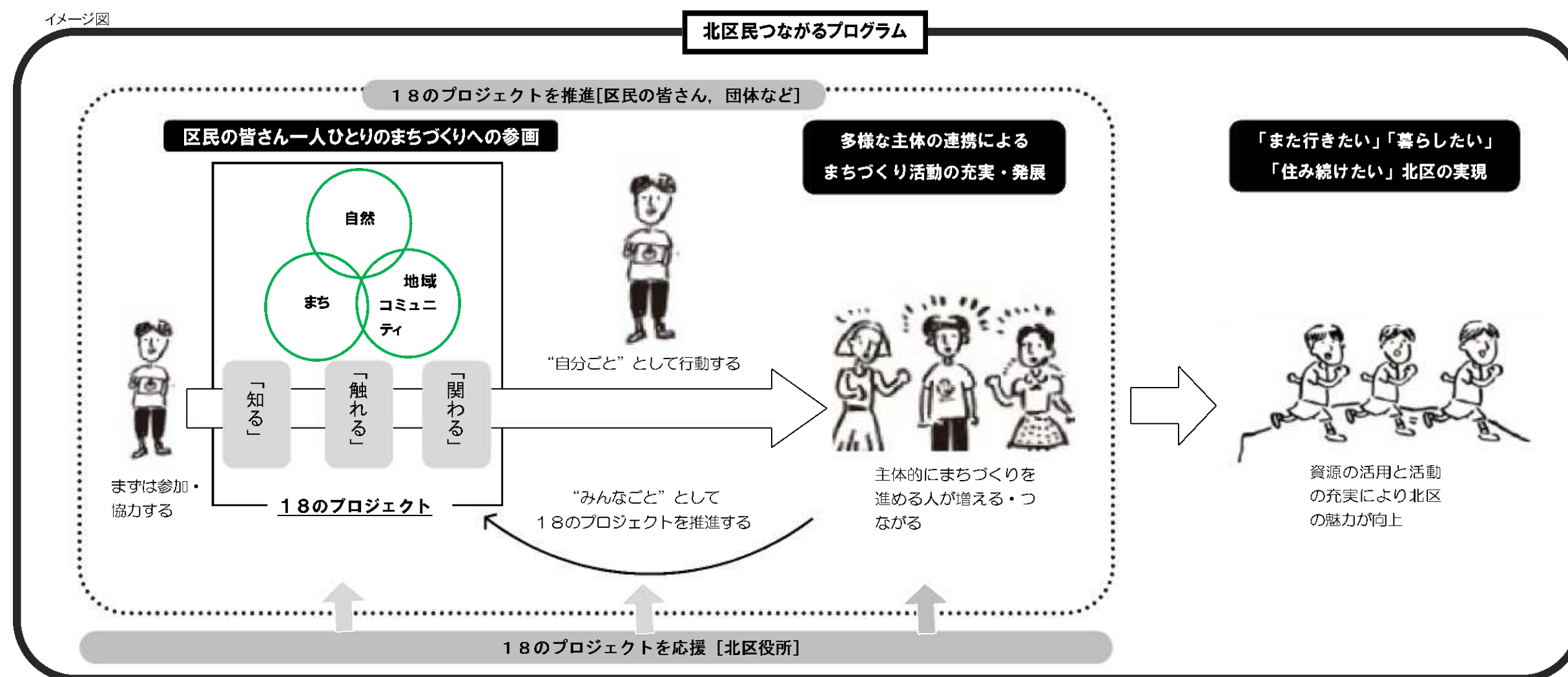
5 実現のために

区民の皆さんが「自分ごと」「みんなごと」として主体的に相互に連携することで、これからのまちをつくっていきます。

これまで北区は、区民の皆さんと行政、団体や事業者の方々などが主体性を持ちながら協力し、共につくりあげてきました。

これからは、「つながる・つなげる」をキーワードに、区民の皆さんと行政が共に行動する「共汗型」のまちづくりを更に進め、18のプロジェクトを通じた、自分の力で自分たちのまちを良くしていく「自分ごと」「みんなごと」のまちづくりを進めていきます。

イメージ図



「自然」とつながる

○現状

北山や賀茂川、船岡山や深泥池などの豊かな自然を有する北区。そうした豊かな自然は、自然環境の維持活動や、農林業に携わる人たちの仕事や暮らしの中で守られてきました。

しかし、少子・高齢化の急速な進展や生活環境の変化により、自然を育んできた担い手が減少することで、山の荒廃や休耕田の増加に留まらず、倒木や土砂災害、河川の氾濫など自然災害の発生が危惧されます。

○目標

山に関わる人だけでなく全ての区民の皆さんが、健康増進の取組や子育てや高齢者福祉の取組など、多様な取組に自然を活かすことで、多くの区民の皆さんが関心を持ち連携して、豊かな自然を未来へつなぎます。

環境や自然について考える



食べたり歩いたり、近くの自然に触れる



環境保全や地域活性に向けて、活動する



知る

01. 北区の木、森、川などの自然に関わる仕事や暮らしを知る！

→小野郷・中川・雲ヶ畑の魅力を発信するウェブサイト「北山三村」の認知度向上や、京野菜や農業を学ぶ機会をつくり、自然と寄り添った豊かな暮らしや活動について、関心を持ち交流するためのきっかけをつくります。

02. 身の回りの環境やごみ問題への関心を持つ！

→不法投棄防止や美化啓発の取組や、エコまちステーションなどの相談できる窓口の認知度向上を図ることで、山や河川、田畑、公園に捨てられるごみについて知り、出さないこと、捨てないことを当たり前にしていきます。

触れる

03. 健康づくりに向けて、北区の自然に触れる！

→北山や賀茂川の自然、北区産野菜、ヨガやエステなどの店舗を、“ウェルネス（健康）”をキーワードにつなげ、ウォーキングコースを設定するなど、健康と自然を掛け合わせた取組を進めます。

04. 子どもや子育て世代が、自然に触れる機会をつくる！

→親子で自然を体験するツアーや、食文化や環境についての学習会など、子どもが豊かな自然に触れ、学び育つ環境をつくります。

関わる

05. 山間地との持続的交流を進める！

→「北山三学区まちづくりビジョン（平成26年3月策定）」に基づき、地域が進める交流人口の増加に向けた取組に、多くの人が主体的に関わる機会をつくります。

06. 豊かな自然環境の保全・継承に向けて関わる！

→自然環境の保全・継承につながる活動を身近に感じ、気軽に参加や協力できる機会をつくります。

「まち（産業・文化など）」とつながる

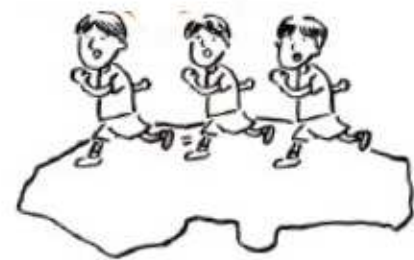
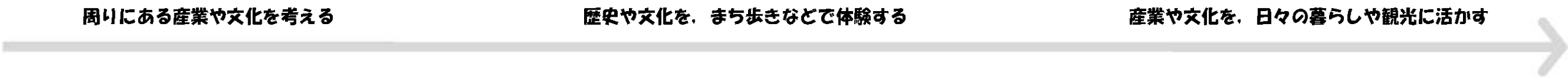
○現状

世界遺産に登録された金閣寺や上賀茂神社などの優れた文化財を有する北区。 賀茂なすや鷹峯とうがらしなど京の伝統野菜の産地であり、北山杉や西陣織なども引き継がれています。また、昔ながらの町並みや地藏盆、振り売りやおぼんざいなど、暮らしの中で産業や文化が生まれ、何世代にもわたり受け継がれてきました。

しかし、働き方や暮らし方の多様化による、生活様式の変化や後継者不足などで、これまでの産業や文化を引き継ぐことが難しい状況にあり、北区らしい暮らしや生活の拠り所を失うことが懸念されます。

○目標

古くから住む人や新たに暮らし始めた人、通勤通学で通う人や観光で訪れる人が、北区ならではの産業や文化を身近に感じることで、日々の暮らしや観光に活かし、次代に継承します。



知る

07. 多様なまちの魅力を知る！
- 情報誌には載らないような文化や歴史を、コミュニティラジ
オなどを通じて区民自らが発信することで、魅力を伝え身近
に感じるためのきっかけをつくります。
08. 公共交通や公園などの有効な使い方を考える！
- 公共交通利用促進や、公園や居場所に関するマップづくりな
ど、情報を整理し発信することで、公共のものを利用しやす
くするとともに、区民の皆さんの関わりによって身近で魅力
的なものにしていくきっかけをつくります。

触れる

09. 地域の歴史文化に触れる！
- 観光マップやまち歩きツアーなど、区民の皆さんや来訪
者が地域文化に触れる機会をつくることで、地域ごとに
文化や歴史を育み継承する機会づくりを進めます。
10. 産業や文化を身近に取り入れる機会づくり！
- 食や文化、産業などについて、体験や出会いを通じて触
れる機会と、PR など情報を通じて触れる機会をつくること
で、背景や使い方などを深く知り、身近な暮らしに取り入
れることにつなげていきます。

関わる

11. 何度も訪れる仕組みづくり！
- 体験型観光プログラム（着地型ツアー^{*1}）など、普段は
体験できない学びの仕組みをつくることで、北区の歴史
文化の奥深さを発信するとともに、何度も訪れるファン
づくりにつなげていきます。
- *1 着地型ツアー：地域ならではのプログラムを企画し、参加者が現地集合、
現地解散する新しい観光の形態
12. 空き家を活かして、暮らしや文化に関わる！
- 空き家を、子育て世代や学生・留学生の定住促進、ゲス
トハウスとしての利用など、積極的に活用することで、地
域に賑わいを生みだすとともに、防犯防災にも役立てま
す。

「地域コミュニティ」とつながる

○現状

みんなが安心安全に暮らしていくために、地域住民によるまちづくり活動が日々盛んに行われている北区。防災訓練や地域行事、清掃活動や挨拶など、普段のお付き合いを起点にあたたかな関係が育まれてきました。しかし、空き家やワンルームマンションの増加、核家族化や高齢化など地域の在り方が変化したことで、地域コミュニティの活動の担い手が不足して活動が衰退し、地域のつながりが希薄化することが憂慮されます

○目標

新たな地域コミュニティの担い手である学生や若者、子育て世代や定年を迎えたシニア世代などが、地域活動や組織に参加することで、子どもや高齢者の見守り活動や防犯防災の取組などが充実した、安心安全で暮らしやすいまちを継続します。

地域活動について考える



ご近所さんに、挨拶する



みんなと一緒に、地域で活動する



知る

13. 移り住んだ人も、地域活動を知る！

→町内会加入情報や地域活動、暮らしに根付いた文化を、冊子やホームページなどで紹介することで、地蔵盆など受け継がれてきた地域の文化や活動に、新しく移り住んできた人が関わるきっかけをつくります。

14. 大学、学生と地域が、お互いを知る！

→大学入学時や北区への転入時に地域情報を提供するなど、大学と地域がお互いの事業や取組に関して情報共有し、大学、学生と地域が関わるきっかけをつくります。

触れる

15. 大学、学生の力を地域課題解決につなげる！

→大学の研究成果や学生の力を地域に活かせるよう、学生がマップづくりやまち歩きなどを通して地域と交流し、歴史や現状を学ぶ機会をつくります。

16. 世代や立場を超えた地域での関係をつなげる！

→地域活動の担い手となる若者や定年を迎えたシニア世代、地域とのつながりを必要とする子育て世代や高齢者などが、様々な活動や団体に触れる環境を整えることで、地域での暮らしにおいて、自分に合った関係を築ける機会をつくります。

関わる

17. 大学と地域が関わりあう！

→地域が大学と関わる時にも、大学が地域と関わる時にも求められる、関係を仲介する仕組みについて検討することで、交流や活動が継続することにつながります。

18. 学区ビジョンの策定等を通して地域活動や自治会に関わる！

→これまで地域活動に関わりが少なかった若者や事業者に自治会の加入を促し、また、定年を迎えたシニア世代、子育て世代等を含めた幅広い住民が、地域の特性を活かした学区ビジョンづくりに参加、参画することで、新たな地域活動の担い手づくりを進めます。

『北区民つながるプログラム』を進めるために

自分のこと＝自分たちのこと＝・・・＝北区（みんな）のこと

『北区民つながるプログラム』では、「また行きたい」「暮らしたい」「住み続けたい」北区に向けて18のプロジェクトを提案しています。これからの北区のまちづくりを進めるために、全ての区民の皆さんの参加と協力により、これからの5年間（平成28年度～32年度）でプロジェクトを進めていきます。

自分一人のできることから、身近な仲間とできること、地域や団体でできることなど、まちづくりと一緒に進めていきましょう。

1. 18のプロジェクトを進めるために

『北区民つながるプログラム』で提案した18のプロジェクトは、区民の皆さんがこの中から興味や関心があるものを選び、まずは自分のできることから進めていくことで、活動を通じて身近な地域や北区を知り、愛着を深め、主体的に行動していく「自分ごと」のまちづくりを目指しています。

また、地域や団体の方々は、日々の活動での知恵や力を活かして、18のプロジェクトに取り組むことで、多様な主体とつながる機会を増やし、仲間の増加や活動の充実につなげる「みんなごと」のまちづくりを目指しています。

一人ひとりができることから、地域や団体での取組など、多様な主体によりプロジェクトが実現すれば、多くの区民の皆さんが北区の豊かな資源と出会い、日々の暮らしを充実させることにつながります。

－「自分ごと」「みんなごと」のまちづくりを進めるためのおすすめ情報－

○まちづくりに関する情報が集まる場所

紙／市民しんぶん北区版、北区役所配架コーナー など

HP・その他／北区役所ホームページ、自治会町内会&NPO おうえんポータルサイト、北山三村（北部山間地域のホームページ）、きたく資源発掘センター（北区のまちづくりや、文化・産業・観光等に関わる魅力を広く発信するホームページ）、コミュニティラジオ、地域の交流サロンTAMARIBA など

○まちづくりに触れる地域ごとや北区全体での取組

地域／地藏盆、夏祭り、学区民運動会 など

区内／北区民ふれあいまつり、北区民ふれあい発表会、北区魅力再発見ウェルネス事業、フナオカスタンダード、北コミまつり など

○まちづくり活動を支援する取組

北区つながるワークショップ、北区民まちづくり提案支援事業 など

2. 18のプロジェクトを支える北区役所の役割

区民の皆さんが主体となって進める「自分ごと」「みんなごと」のまちづくりを応援するために、行政と地域が連携して取り組んできた共汗型のまちづくりを更に進めていきます。

「知る」を応援

地域や団体、区役所からの情報など、まちづくりを知る機会はたくさんあります。

これからは、新たな情報媒体の構築や多様な情報の集約・整理などを行い、必要な情報が適切に伝わるように取り組みます。

主な事業

send a smile プロジェクト、コミュニティラジオ開設、【新規】地域コミュニティ加入促進（応援プロジェクト）

「触れる」を応援

地蔵盆などの地域行事や、区民の皆さんがみんなで取り組むイベントなど、日々たくさんの取組が行われています。

これからは、地域や団体での既存の活動や、18のプロジェクトに沿った新たな取組等に、より多くの区民の皆さんが触れ、活動に関心を持てるような取組を進めます。

主な事業

ニコニコ 北っ子・親子で楽しむコンサート、ニコニコ 北っ子・親子で学ぶ京の旬野菜クッキング、

北区魅力再発見ウェルネス事業、【新規】学区まちづくりビジョン策定（応援プロジェクト）

「関わる」を応援

地域活動や市民活動など、まちづくりを進めるたくさんの取組主体があります。それらの取組主体の交流の機会を設け、活動に対する助成制度によりまちづくり活動を支援するとともに、新たにまちづくりに参加・協力をする方が増えるように取り組みます。また、『北区民つながるプログラム』の推進組織を作り、地域を核とした北区のまちづくりを推進します。

主な事業

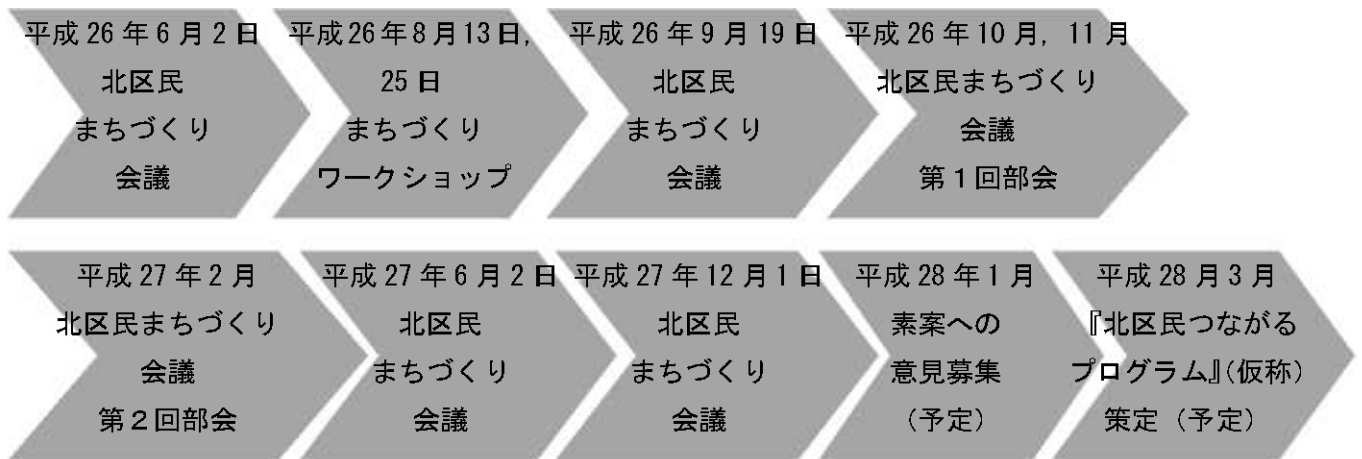
北区つながるワークショップ、北区民まちづくり提案支援事業、【新規】北区つながる会議（仮称）の創設

18のプロジェクト

	知る	触れる	関わる
「自然」とつながる	01 北区の木、森、川などの自然に関わる仕事や暮らしを知る！ 02 身の回りの環境やごみ問題への関心を持つ！	03 健康づくりに向けて、北区の自然に触れる！ 04 子どもや子育て世代が、自然に触れる機会をつくる！	05 山間地との持続的交流を進める！ 06 豊かな自然環境の保全・継承に向けて関わる！
「まち（産業・文化など）」とつながる	07 多様なまちの魅力を知る！ 08 公共交通や公園などの有効な使い方を考える！	09 地域の歴史文化に触れる！ 10 産業や文化を身近に取り入れる機会づくり！	11 何度も訪れる仕組みづくり！ 12 空き家を活かして、暮らしや文化に関わる！
「地域コミュニティ」とつながる	13 移り住んだ人も、地域活動を知る！ 14 大学、学生と地域が、お互いを知る！	15 大学、学生の力を地域課題解決につなげる！ 16 世代や立場を超えた地域での関係をつなげる！	17 大学と地域が関わりあう！ 18 学区ビジョンの策定等を通して地域活動や自治会に関わる！

『北区民つながるプログラム』ができるまで

策定の経過



写真

写真

写真

写真

写真

写真

北区民まちづくり会議委員名簿（平成 28 年 3 月現在）

	氏 名	所 属 等	所属部会
座 長	市川 貢	京都産業大学経営学部教授	—
副座長（部会長）	志藤 修史	大谷大学文学部教授	福祉・中山間
副座長（部会長）	島田 昭彦	京都精華大学非常勤講師	文化・観光
副座長（部会長）	谷口 浩司	佛教大学社会学部教授	大学・まちづくり
副座長（部会長）	宗本 晋作	立命館大学理工学部准教授	環境・都市デザイン
	池田 徳治	京都市農業協同組合上賀茂支部長	環境・都市デザイン
	内田 雅子	洛陽保育園理事長	福祉・中山間
	加畑 美奈	公募委員	環境・都市デザイン
	小泉 岳志	京都市小学校PTA連絡協議会北下支部理事（楽只小）	大学・まちづくり
	佐々木 徳昭	北区「人づくり」ネットワーク実行委員会委員	文化・観光
	田井 祥文	北山街協同組合代表理事	文化・観光
	高奥 英路	紫竹自治連合会会長	環境・都市デザイン
	田中 美保子	御薗橋 801 商店街振興組合理事長	大学・まちづくり
	田中 安比呂	賀茂別雷神社宮司	文化・観光
	谷口 みゆき	京都「おやじの会」連絡会幹事	大学・まちづくり
	中村 アヤ	公募委員	文化・観光
	林 正則	紫野カルチャー亭運営協議会会長	福祉・中山間
	福永 泰正	新大宮商店街振興組合理事長	環境・都市デザイン
	福村 毅之	北大路商店街振興組合理事長	環境・都市デザイン
	瀧上 佑樹	理想の森プロジェクト代表	福祉・中山間
	星野 宏	株式会社淡交社総務部長	文化・観光
	森 貞子	北区社会福祉協議会会長	福祉・中山間
	森下 武洋	京都北山丸太生産協同組合理事長	福祉・中山間
	森下 徹	北区市政協力委員連絡協議会世話人代表	大学・まちづくり
	吉田 光一	株式会社フラットエージェンシー取締役会長	大学・まちづくり

前委員

氏 名	所 属 等	所属部会
鎌田 泰正	京都市小学校PTA連絡協議会北上支部理事（大宮小）	大学・まちづくり
日下部 潔	京都「おやじの会」連絡会幹事	大学・まちづくり
本田 秀一	北区市政協力委員連絡協議会世話人代表	大学・まちづくり

未来を語る会 イラスト

北区基本計画—これから5年間のまちづくり—

『北区民つながるプログラム』(素案) について意見を募集!

北区民まちづくり会議(座長 市川貢 京都産業大学経営学部教授)では、「北区基本計画～はつらつ北区プラン～」に掲げた10の分野(「環境」「地域活動」「生涯学習・文化活動」「産業」「観光」「大学」「子育て」「健康安心」「生活基盤」「北山三学区」)の73の主要な取組例のほぼ全てについて着手したことに加え、計画策定から5年が経過し、また北区制60周年を契機とした北区のまちづくりの更なる発展を図るため、今日的課題である「人口減少社会への対応」や「安心安全のまちづくり」の推進、地域コミュニティの担い手としての学生をはじめとする「若者」や「子育て世代」等の地域活動への参加・参画の促進を視点に議論してきました。

また、市政の重点取組である、誰もが楽しく暮らし、優しさあふれるまちを築く「世界一安心安全・おもてなしのまち京都 市民ぐるみ運動」や人口減少社会の克服や一人ひとりが笑顔で、安心して生き、暮らせるまちを築く「まち・ひと・しごと・こころ京都創生」、市民ぐるみで健康づくりに取り組む機運を高めていく「健康長寿のまち・京都」の推進に向けて、区民と行政が主体性を持ちながら連携し、取組を進めていきます。

『北区民つながるプログラム』は、“つながる・つなげる”をキーワードに、市政の重点施策と課題を共有しながら、北区が目指すまちの将来像の実現に向けて、区民^{*1}が主体的に取り組むためのプログラムです。区民と北区の資源(=「自然・まち・地域コミュニティ」)とが、「知る・触れる・関わる」3つの段階を経てつながることで、北区の地域力が向上することを目指し、区民みんなで取り組む今後5年間のまちづくりを18のプロジェクトとして取りまとめました。

^{*1} 区民：北区基本計画では、北区に通勤する人、通学する人など北区で活動する人も、北区のまちづくりにかわる一員となっていていただくことを期待して、区民に含めることとしています。

【募集期間】

平成28年1月4日(月)～1月31日(日)

【応募方法】

裏面の応募用紙記入のうえ、切り取って、FAX、郵便、メールで送付、又は持参ください。応募用紙は、ワード形式で北区役所ホームページに掲載していますので、ご利用ください。

【応募・問い合わせ先】

京都市北区役所地域力推進室 企画担当(北区総合庁舎 本庁舎3階)

〒603-8511 京都市北区紫野東御所田町33-1

電話 432-1199 FAX 432-0388

メール kita-ku@city.kyoto.lg.jp

ホームページ <http://www.city.kyoto.lg.jp/kita/index.html>

*お寄せいただいたご意見につきましては、個人に関する情報を除き、内容を公開する場合があります。また、ご意見に対する個別の回答は致しませんので、ご了承ください。

北区基本計画ーこれから5年間のまちづくりー 『北区民つながるプログラム』（素案）

1 進める視点

地域での『つながり』が、改めて必要とされています。

北区基本計画が策定されて5年が経つ間、少子人口減少社会の顕在化や、東日本大震災の発生など、私たちの暮らしに関わる大きな社会状況の変化がありました。

北区でも、人口が12万人を下回り、今後も減少すると予測されています。少子化・高齢化が進み、地域の担い手である若い世代が更に少なくなることは、地域コミュニティが弱まることにつながり、豊かで安心な暮らしを育んできた、まちづくり活動の充実や安心安全の継続が危惧されます。そのため、健康寿命の延伸はもとより定年を迎えてシニア世代、子育て世代、学生や若者など多くの世代のまちづくりへの参画が、ますます求められています。

2 目指すもの

一人でも多くの来訪者や区民の皆さんが、北区に「また行きたい」「暮らしたい」「住み続けたい」と実感することです。

多様なまちづくり活動が行われることによって、北区の資源（＝「自然・まち・地域コミュニティ」）が活かされ、「また行きたい」「暮らしたい」「住み続けたい」と実感できる魅力的なまちを育むことができます。

3 取り組むこと

区民の皆さんと北区の資源をつなげるために、「知る・触れる・関わる」環境を整えます。

区民の皆さんと北区の資源がつながる機会を、「知る・触れる・関わる」という段階に分けて整理し、これからの北区のまちづくりにつながる18のプロジェクトとして提案します。

- ・資源とつながる段階 まずは「知る」：溢れる情報を整理し届けます
つぎに「触れる」：色々な体験の機会をつくります
そして「関わる」：区民が取り組める仕組みをつくります
- ・18のプロジェクト ＝ 3つの資源×3つの段階（段階ごとに2つの提案）

4 実現のために

区民の皆さんが「自分ごと」「みんなごと」として主体的に相互に連携することで、これからのまちをつくっていきます。

これまで北区は、区民の皆さんと行政、団体や事業者の方々などが主体性を持ちながら協力し、共につくりあげてきました。これからは、“つながる・つなげる”をキーワードに、区民の皆さんと行政が共に行動する「共汗型」のまちづくりを更に進め、18のプロジェクトを通じた、自分の力で自分たちのまちを良くしていく「自分ごと」「みんなごと」のまちづくりを進めていきます。

【北区をつくる18のプロジェクト】

自然とつながる

- ①北区の木、森、川など自然に関わる仕事や暮らしを知る！
- ②身の回りの環境やごみ問題への関心をもつ！
- ③健康づくりに向けて、北区の自然に触れる！
- ④子どもや子育て世代が、自然に触れる機会をつくる！
- ⑤山間地との持続的交流を進める！
- ⑥豊かな自然環境の保全・継承にむけて関わる！

まち（産業・文化など）とつながる

- ⑦多様なまちの魅力を知る！
- ⑧公共交通や公園などの有効な使い方を考える！
- ⑨地域の歴史文化に触れる！
- ⑩産業や文化を身近に取り入れる機会づくり！
- ⑪何度も訪れる仕組みづくり！
- ⑫空き家を活かして、暮らしや文化に関わる！

地域コミュニティとつながる

- ⑬移り住んだ人も、地域活動を知る！
- ⑭大学、学生と地域が、お互いを知る！
- ⑮大学、学生の力を地域課題解決につなげる！
- ⑯世代や立場を超えた地域での関係をつなげる！
- ⑰大学と地域が関わりあう！
- ⑱学区ビジョンの策定等を通して地域活動や自治会に関わる！

意見・提案応募用紙

【あて先】

FAX：075-432-0388 ※必ず応募用紙の両面を送信してください。

郵 送：〒603-8511 北区役所地域力推進室 ※住所記載不要

持 参：北区総合庁舎本庁舎3階 地域力推進室 ☎075-432-1199

メール：kita-ku@city.kyoto.lg.jp

※応募用紙は、ワード形式で北区役所ホームページに掲載していますので、そちらに御記入のうえ、メールで送付いただくことができます。

該当するものに○をつけてください。

問1 現在の北区は、「また行きたい」「暮らしたい」「住み続けたい」まちだと思いますか？

- ア 思う (理由)
イ 思わない (理由)

問2 あなたは、「また行きたい」「暮らしたい」「住み続けたい」まちにするために、「人口減少への対応」「安心安全の向上」「若者・子育て世代等の地域活動への参加・参画促進」の3つの視点を重視することが適切だと考えますか？

- ア 適切である (理由)
イ 適切でない (理由)
ウ その他 ()

問3 あなたが「自然」、「地域コミュニティ」、「まち（産業・文化など）」といった北区の資源に関わりを深め、愛着や誇りを持てる環境に整えることが、北区を「また行きたい」「暮らしたい」「住み続けたい」まちにすると思いますか？

- ア 思う (理由)
イ 思わない (理由)

問4 あなたと「北区の自然」をつなげる取組として、以下のようなものがあれば、「参加したい」「やってみたい」と思いますか。思うものに○をつけてください。(複数回答可)

- ア 北区の木、森、川などの自然に関わる仕事や暮らしを知る！
イ 身の回りの環境やごみ問題への関心を持つ！
ウ 健康づくりに向けて、北区の自然に触れる！
エ 子どもや子育て世代が、自然に触れる機会をつくる！
オ 山間地との持続的交流を進める！
カ 豊かな自然環境の保全・継続に向けて関わる！
キ その他 ()

【裏面も御記入・送信ください】

問5 あなたと「北区のまち（文化・歴史、産業など）」をつなげる取組として、以下のよう
なものがあれば、「参加したい」「やってみたい」と思いますか。思うものに○をつ
けてください。（複数回答可）

- ア 多様なまちの魅力を知る！ イ 公共交通や公園などの有効な使い方を考える！
 ウ 地域の歴史文化に触れる！ エ 産業や文化を身近に取り入れる機会づくり！
 オ 何度も訪れる仕組みづくり！ カ 空き家を活かして、暮らしや文化に関わる！
 キ その他（

問6 あなたと「北区の地域コミュニティ」をつなげる取組として、以下のようなものがあれば、「参加したい」「やってみたい」と思いますか。思うものに○をつけてください。（複数回答可）

- ア 移り住んだ人も、地域活動を知る！
イ 大学、学生と地域が、お互いを知る！
ウ 大学、学生の力を地域課題解決につなげる！
エ 世代や立場を超えた地域での関係をつなげる！
オ 大学と地域が関わりあう！
カ 学区ビジョンの策定等を通して地域活動や自治会に関わる！
キ その他（

問7 「北区基本計画－これから5年間のまちづくり－『北区民つながるプログラム』（素案）について何かご意見があれば、自由にご記入ください。

差し支えなければ、あなたご自身についてお聞かせください。※いずれかに○をしてください。

性 別	男性・ 女性 （ 学区に） 在住 ・ 通勤 ・ 通学 ・ その他
年 齢	20 歳未満・ 20 歳代・ 30 歳代・ 40 歳代・ 50 歳代・ 60 歳代・ 70 歳代・ 80 歳以上

「北区基本計画」

ーこれから5年間のまちづくりー『北区民つながるプログラム』

【今後のスケジュール】

平成27年12月1日	<u>まちづくり会議 プログラム素案の検討</u>
12月中下旬	北区制60周年記念事業実行委員会 「地域代表者会議」で素案報告
12月24日	パブリックコメント実施についての広報発表 意見募集期間 平成28年1月4日～31日 <u>北区民まちづくり会議委員にパブリックコメントの意見 募集依頼</u>
平成28年1月15日	市民しんぶん北区版でパブリックコメント募集掲載
2月下旬	北区民まちづくり会議部会長会議 パブリックコメントを反映させた修正案の取りまとめ
3月上旬	北区民まちづくり会議 最終案のとりまとめ
3月下旬	最終案の広報発表 <u>北区制60周年記念事業実行委員会で報告（冊子配布）</u>
5月15日	市民しんぶん北区版挟み込み（1ページ）で概要の掲載

北区民まちづくり会議委員各位

**「北区基本計画－これから5年間のまちづくり－『北区民つながるプログラム』
（素案）についての意見募集ご協力のお願い**

「北区基本計画－これから5年間のまちづくり－『北区民つながるプログラム』
の策定の参考資料とするため、以下のとおり意見募集を実施したいと考えています。
つきましては、委員の皆様にも、調査票の配布・回収にご協力をお願いします。

【アンケート実施概要】

（1）実施時期

平成28年1月4日（月）～1月31日（日）

（2）内 容

『北区民つながるプログラム』（素案）についての質問：7問

（3）対 象

18歳以上の北区民（北区に通勤する人，通学する人，活動する人を含む）

（4）回収方法

①又は②の方法をお願いします。

①回答者が添付の返信用封筒により北区役所に送付又はFAX

②委員が取りまとめて北区役所に送付

（5）その他

- ・12月中旬に、配布用資料（意見募集用紙，返信用封筒）10セットを委員
の皆様に郵送させていただきます。

【問い合わせ】

北区役所地域力推進室企画担当 土居，杵浦

TEL：432－1199

FAX：432－0388